

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様や家族様と信頼関係を築き円滑な関係が保てるようにしている。また、利用者様一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう支援している。敷地内に法人が運営している病院があり、365日24時間連絡体制を整えており、緊急時など迅速に対応できるよう努めている。ホーム内には季節に応じて壁飾り等を飾っており季節感を感じていただけるよう配慮している。コロナ禍で感染防止のため外出が難しいが、気分転換が図れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に河川等がある、県道沿いに位置している。敷地内には、同一法人が運営する医療機関や他サービス事業所などが隣接し、24時間対応可能な医療体制を整備している。また、日ごろの支援や避難訓練などの機会に連携・協力し、利用者・家族等に対して安心安全な生活を提供できるよう、支援に取り組んでいる。さらに、他の法人が運営する事業所と災害時相互協定を結び、発災時に相互に協力できるようにするなど、連携体制を整備している。食事は、医療機関の管理栄養士が作成した献立をもとに提供している。また、季節ごとの行事や誕生会のおやつは、工夫を凝らした手作りのものを提供するなど、利用者の喜びや思い出に繋がるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、利用者が閉塞感等を感じることはないよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、職員間で共有している。また、理念に基づき、利用者が安心して穏やかに楽しみを持って過ごしていただけるよう支援している。	事業所では、全職員で協議・検討した、事業所独自の理念を掲げている。理念を事業所内に掲示し、職員間での共有化を図っている。申し送りやミーティング等で理念を振り返り、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防により自粛しており地域の方との交流は難しい状況にあるが、感染対策をしっかりとおこなった上で、地元の理美容師の方には訪問していただいている。	事業所では、日常的に地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、安全面に配慮しつつ、地域の理・美容師の来訪を受けたり、同一法人が運営する併設の他サービス事業所と交流したりして、地域交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で交流も少なく実際に出向いてお話しする事はできておらず、書面にて運営推進会議での取り組み等を報告させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であるため運営推進会議は書面での開催となっており、市役所、民生委員等会議メンバーの方々には書面にて定期的に報告している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面会議を行っている。事業所の現況等について、各委員に報告しているが、事業所や地域の課題等について、委員から意見を得るまでには至っていない。	今後は、事業所の現況報告とあわせて、サービスの質の向上に向けた協議を行うことが望まれる。また、電話や書面等により、各委員から意見等を収集し、双方向的な会議となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入退居者報告や定期的に状況報告を行っている。メール、電話等でのやりとりも行き、市町村担当者の協力、助言等いただき協力関係が築けるよう努めている。	管理者は、毎月、市の担当者に、事業所の現況を報告している。感染症の流行下においては、電話やメール等を活用し、連絡を取っている。また、制度の変更時等に助言を得るなど、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を事業所内に掲示し、日頃から職員間で身体拘束の弊害を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、定期的な勉強会や研修会、日ごろのミーティング等の機会に、身体拘束の内容や弊害などについて、職員間で共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりの心身状況を踏まえ、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から言葉遣いや対応に気をつけている。高齢者虐待防止の研修を行い、職員全体で虐待のない、また虐待が見過ごされることがない環境作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、制度の理解に努めている。また、実際に制度を利用されている方もおられ、関係機関と連携し助言等していただきながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際は、十分な説明を行い、不安点や疑問点を聞き同意を得たうえで手続きを進めている。それ以降でも随時、理解、納得を得られるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者との会話や表情から思いを把握できるよう努めている。家族様からは意見や要望を気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。出された意見等については協議し運営に反映している。	職員は、日ごろの利用者との会話や表情などから、本人の意見や意向等を把握している。家族等の来訪時には、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等について、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日々の申し送りや業務の中で、職員から提案された意見を聞き取り、検討した上で運営に反映している。	管理者は、日ごろから、職員の意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等を、運営面に反映し、職員の意欲向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃から職員の努力や実績、勤務状況を把握しており、職員がやりがいを持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の力量を把握し、各自が向上心を持って働けるよう資格取得や研修参加への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、同業者と交流する機会があり、可能な範囲で相互訪問したり情報交換を行っており日々のケアやサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、担当ケアマネ、本人、家族等から状況をお聞きし、不安や要望等を聞くことで、入居後の処遇に役立て不安なく過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望、在宅時の苦労などをお聞きし、施設でできる事、対応が難しいもの等わかりやすく説明を行い、入居されてからも気兼ねなく相談してもらえるような雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の困りごとや要望をお聞きし、施設でできる事、対応が難しいもの等わかりやすく説明させていただき、入居するという選択が最善かどうか検討している。必要に応じて他の選択肢の提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家庭的な雰囲気のもと支援している。本人のできる事はしていただき、できない事を一緒に行う事で共に支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、日頃の状況をお伝えし情報を共有できるようにしている。本人が不安に感じている時には、家族様と協力し支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防で面会の制限を行っているが、状況に応じて感染対策を行った上で 短時間での面会ができるよう努めている。	事業所では、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に向けて支援している。感染症の流行下においては、手紙や電話等を活用し、関係性が途切れることのないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、良好な関係が保てるよう職員が調整役となって支援している。日中は、一人で過ごす時間あれば、レクリエーション等で共に過ごす時間もあり孤立することなく関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族様が不安に思う事があれば相談に応じている。退居後も家族様が立ち寄ってくれている方もおられる。入院された場合にも家族様より経過をお聞きし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意向をくみ取れるようにしている。常に本人の思いを大切に、よりよい暮らしが送れるように配慮している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの希望や意向を引き出すよう努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等から情報を得たり、表情等を確認したりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族、担当ケアマネより聞き取りを行い把握している。入居後も本人の望む生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子から、心身の状態や残存能力等を把握し、細かな変化にも気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を踏まえた介護計画書を作成している。定期的な見直しやモニタリングを行い現状に応じた計画となるよう作成している。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画書を作成している。一人ひとりの心身状況にあわせて、できる限り体を動かすことを大切に捉え、計画に反映している。定期的に見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、日頃の様子や変化を記録し、職員間で共有している。状況に応じた支援ができるよう努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や新たなニーズに応えられるよう職員間で話し合いを行い、柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であるため、ほとんどのボランティアの受け入れは中止となっている。訪問理美容院のみ感染防止対策を行い利用させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医を確認している。かかりつけ医による継続的な医療を受ける方や専門医を受診される方もおられ、本人や家族の希望により適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週3回、協力医療機関からの往診がある。また、関係機関と連携を図り、24時間対応可能な医療体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営している医療機関と24時間連絡が取れる体制となっており、常に情報を伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い情報交換を行っている。退院後は、病院からの情報をもとに退院後の支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人や家族に終末期に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、利用者、家族にその都度意向を確認している。協力医と連携し、利用者が安心して暮らせるよう支援している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の方針を利用者や家族等に説明し、同意を得ている。随時、本人の心身状況の変化に応じて、利用者や家族等の意向を確認しつつ、関係機関と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成している。同一法人の運営している医療機関と24時間連絡のとれる体制となっており、迅速な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、同一法人が運営する病院やサービス事業所、地域の消防署の協力を得て避難訓練を実施している。施設では、緊急持ち出し袋やヘルメットを準備し 玄関や居室に設置している。	年2回、地域の消防署の協力を得つつ、同一法人が運営する併設の他サービス事業所や病院等と合同で避難訓練を実施している。また、市外の別法人の事業所と、災害時相互協定を結ぶなど、他機関との連携・協力体制も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの意思や人格、プライバシーを尊重し言葉かけや介助を行っている。定期的に研修を行い職員間で意識の共有を図っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。プライバシーを損ねることのないよう、声かけ等に配慮している。事業所では、定期的に、権利擁護に関する研修を行い、プライバシー確保に関して、職員間での周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見や希望を大切に接している。訴えの少ない方には、選択肢をもうけ意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状況に配慮しながら柔軟な対応ができるよう心がけている。また、ご自分のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等は自己決定に基づいて支援している。日々の関わりの中で、本人の好みを把握し、介助が必要な方はさりげなく手伝うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立のもと隣接の病院厨房で調理された食事を職員が個々の状態にあわせた形態にし提供している。行事のおやつ等は事業所内で作り、利用者の思い出に残るよう取り組んでいる。	事業所では、同一法人が運営する併設の医療機関の管理栄養士が立てた献立をもとに、食事を提供している。日ごろのおやつや誕生日食、行事食等を手作りするなど、食事が楽しく、思い出に残るものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が栄養バランスを考えて作成されている。職員は、食事摂取量や水分摂取量を記録し一人ひとりの状態が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行っている。食後は、個人の状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状態に応じてトイレ誘導を行いトイレやポータブルトイレを使用している。個別に排泄チェックを記録し排泄パターンを把握している。介助の際は、自尊心を傷つけないよう配慮し介助を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。できる限りトイレで排泄することができるよう、誘導や声かけ等に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は、リハビリ体操やレクリエーションを行い体を動かす機会をもうけている。食べ物や水分摂取に気をつけ、できるだけ自然に排便が促せるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴を実施。本人の体調や希望に合わせて羞恥心や不安感に配慮した入浴を支援している。清拭や足浴に変更する場合もあるが、清潔が保て気持ちよく過ごしていたけよう支援している。	事業所では、週3回、入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、足浴や清拭も行っている。利用者の好みのシャンプーや石けんを使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯等を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に配慮しながら外気浴やリハビリ体操、レクリエーションで体を動かす機会をもうけ、夜間には安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が内容を把握し、個々のケースで管理している。職員は飲み忘れや誤薬がないように確認を行っている。職員は体調の変化等を医師や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて、洗濯物たたみ等をお願いしたり、役割を持って過ごせるよう支援している。また、楽しみや気分転換ができるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ禍であり感染予防のため戸外には出かけられていない。天気がよい時は、敷地内の散歩や外気浴などを行い気分転換ができるようにしている。他病院への通院は、感染予防を行い家族様等と外出している。	事業所では、日常的な外出支援に努めている。感染症の流行下においては、敷地内を散歩するなど、利用者にとって閉塞感がないよう支援に取り組んでいる。また、通院時にドライブを行うなど、安全面に配慮した外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族様が行っている。権利擁護を利用されている方はお小遣いを管理し、通院時、本人が買い物ができるよう手渡し金銭管理表に記録し後見人に定期的に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用している。携帯電話を持参されている方はご自分で家族とやり取りされている。また、手紙のやり取りを行っている方もおられ職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花を飾ったり、壁紙を変えたりして季節感を感じることができるようにしている。居室は馴染みの物を持ち込んでいただき、室内の消毒、掃除、換気など心がけ コロナ禍でも安心して過ごせるよう支援している。	共用空間には、天窓から光が差し込み、明るい。壁面に季節の飾りつけを行ったり、花を飾ったりして、季節感を出すよう心がけている。また、定期的に、温度管理や換気を行うなど、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好きな場所で、自由にくつろげるようソファ、テレビ、椅子等を設置している。居室は全個室となりプライベートな空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んだり、写真や造花を飾ったりして 本人の思うような居室作りを支援している。利用者が居心地よく過ごせ、馴染みのある生活が継続できるよう支援している。	居室には、家具や写真、造花など、利用者にとって馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。家具等の配置にも配慮しつつ、利用者が居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に応じて、ベッドやポータブルトイレを配置し、安全に移動ができる自立した生活が送れるよう支援している。居室やトイレの場所がわからない方がおられた場合は目印をつけたりしている。		